

平成 28 年度 登録建築板金基幹技能者講習試験

(関東甲信越ブロック)

1 年月日 平成 29 年 3 月 5 日 (日)

2 会場 東京都港区三田 1-3-37
板金会館

3 試験時間 60 分

4 問題数 30 問 (四肢択一式)

5 注意事項

- (1) 係員の指示があるまで、問題を開かないで下さい。
- (2) 解答用紙に、所属組合名・受講番号・氏名を必ず記入して下さい。
- (3) 係員の試験開始の合図で始めて下さい。
- (4) 正解を一つ選択して解答して下さい。二つ以上解答した場合は誤答となります。
- (5) 解答は、必ず解答用紙に記入して下さい。
- (6) 携帯電話は、試験前には必ず電源を切って下さい。
- (7) 質問がある場合は、速やかに挙手して係員の指示に従って下さい。
但し、試験問題の内容や漢字の読み方等に関する質問には、お答えできません。
- (8) 試験終了時刻前に退席する場合 (試験開始から 30 分経過後より可能) は、挙手して係員の指示に従って下さい。トイレ等の一時的な離席も同様です。

終了の合図があったら筆記用具を置き、係員の指示に従って下さい。

平成 28 年度 登録建築板金基幹技能者講習試験問題

平成 29 年 3 月 5 日出題

問 1 登録基幹技能者の役割として誤っているものはどれか

- イ 現場の状況に応じた施工方法等の提案、調整等を行う
- ロ 現場の作業を効率的に行うための技能者の適切な配置、作業方法、作業手順等の構成を行う
- ハ 生産グループ内の技能者である立場に徹して作業を行う
- ニ 前行程・後行程に配慮した他の職長との連絡・調整を行う

問 2 登録基幹技能者に求められる能力について、次の記述のうち誤っているものはどれか

- イ 十分な経験を有し、軽度の作業能力
- ロ 出来上がりの点検、工事の是正ができる
- ハ 技術の進展等に的確に対応した知識
- ニ 現場をまとめ、体系だった効率的な作業を実施するための管理能力

問 3 管理者の効果的な話し方で、次の記述のうち誤っているものはどれか

- イ 話すことは重要だという認識を持つこと
- ロ 自信を持ち熱意を込めて話す
- ハ 話しは長々とする
- ニ 話すテーマをよく理解しておく

問 4 環境保全計画の検討事項について、次の記述で誤っているものはどれか

- イ 人工環境の保全
- ロ 公害の防止
- ハ 近隣環境の保全
- ニ 労働環境の保全

問 5 労働安全衛生法はいつから確立されたか

- イ 昭和 22 年
- ロ 昭和 47 年
- ハ 昭和 60 年
- ニ 平成元年

問6 労働安全衛生法について、次の記述のうち誤っているのはどれか

- イ 統括安全衛生責任者を選任すべき事業者以外の請負人は、安全衛生責任者を選任しなければならない
- ロ 事業者は、高圧室内作業その他の労働災害を防止するための管理を必要とする作業を行う場合は、免許を受けた者又は技能講習を修了した者のうちから作業主任者を選任し、作業に従事する労働者の指導等を行わせなければならない
- ハ 事業者は、労働者を雇入れたときは、従事する業務の安全衛生教育を行わなければならない
- ニ 事業者は、労働者に対し、厚生労働省令で定めるところにより、看護婦による健康診断を行わなければならない

問7 コンプライアンスの意味として正しいものはどれか

- イ 企業の法令遵守
- ロ 責任を持った約束・公約・確約
- ハ 互いに意思や感情、思考を伝達し合うこと
- ニ 概念・観念

問8 安全衛生管理体制に関する、次の記述で誤っているものはどれか

- イ 労働安全衛生法は、事業場（店社）や現場の規模ごとに安全衛生管理体制が定められている
- ロ 事業場ごとの安全衛生管理体制では、規模[直用労働者数]に応じて総括安全衛生管理者、安全管理者、衛生管理者等の選任や安全・衛生委員会の設置が必要となる
- ハ 直用労働者が10人～49人の中小規模の事業場であれば、事業主が安全衛生推進者を選任して、安全衛生の業務を担当させることになる
- ニ 10人以下の事業場では、安全衛生管理体制は定められていないが、10人～49人規模の事業場に準じた安全衛生管理体制とする必要はない

問9 品質管理について、次の記述のうち誤っているのはどれか

- イ 品質管理とは、設計図書及び仕様書に示された規格を十分満足するような工事目的物を最も経済的につくるための管理である
- ロ 高い品質は、発注者をはじめ、設計・監理者・ゼネコン・専門工事業者・材料供給業者の間で品質に関する考え方の共有が必要である
- ハ 品質に対する顧客満足度と顧客要求事項を満たす程度が高ければ品質は高く、逆であれば、品質は低くなる
- ニ 品質は工程と検査で造り込む

問10 住居の外部環境の考えとして、次の記述のうち誤っているものはどれか

- イ 景観
- ロ 日当たり
- ハ 風通し
- ニ 水はけ

問11 改修工法について、次の記述で誤っているものはどれか

- イ 既存塗り替え工法は、既存の屋根ふき材又は外壁材表面の劣化部分を除去し、耐用年数や遮熱性能の向上を重視した全面的な塗り替えるもの
- ロ 既存被覆工法（カバー工法）は、既存の屋根ふき材等を撤去せずに、その上から金具等を介して新規の仕上げ材を機械的に固定するもの
- ハ 既存ふき替え工法は、既存の屋根ふき材等を撤去した後、新規の仕上げ材を施工するもの
- ニ 既存塗り替え工法は、既存被覆工法や既存ふき替え工法よりも比較的高価な改修コストで実施できると考えられる

問12 屋根葺き材の適用勾配について、次の記述のうち誤っているものはどれか

- イ 平葺（一文字葺） 4/10 以上
- ロ 粘土瓦葺 4/10 以上
- ハ 心木なし瓦棒葺 5/100 以上
- ニ 心木あり瓦棒葺 1/10 以上

問 13 外壁の下地構法として次の記述のうち誤っているものはどれか

- イ 外壁の下地に用いる胴縁は、適切な強度、剛性並びに耐久性を有するものとしなければならない
- ロ 胴縁の取り付けは外壁材に拘わらず 450 mmとし、防耐火性能等が必要な場合にはその仕様に準ずる
- ハ 外壁各部の取り合いには、外壁材の端部や役物等を固定するために適切に胴縁を配置する
- ニ 胴縁の不陸その他の下地の不具合は、外壁の仕上げに影響を与えるので注意しなければならない

問 14 責任施工保証制度の目的及び内容となる 4 つの側面について、次の記述のうち誤っているのはどれか

- イ 最終的には、自己責任のかたちで国民の信頼に応えることのできる専門の担当分野が確立されなければならないという意味において、屋根及び外壁を中心とした建築外装系について自立した専門工事業としての「業種的地位」を確立するための運動
- ロ 施主あるいは発注者の信頼につながる公正さや透明性を担保する観点から、客観データに基づく図書体系の策定等を通じての、使用資材及び採用構工法並びに駆使する技能・技術に関する「定型化」あるいは「標準化」を進める運動
- ハ 施工の直接作業能力を有する人材としての<技能者>の養成、施工管理能力を有する人材としての<技術者>の養成など、「人づくり（登録基幹技能者）」を進める運動
- ニ 小規模事業者が圧倒的に多い業界の実態を考慮し、作業の共同から事業の協同及び合同までを視野に入れた「資金援助づくり」を目指す運動

問 15 設計・施工上の役割の説明として誤っているものはどれか

- イ 鋼板製屋根・外壁の設計・施工に関わる者として、設計者、総合工事業者、専門工事業者、製品供給業者がある
- ロ 構造耐力上の検討を含めた設計行為に対する責任は設計者にある
- ハ 仕様や強度データ等の各種技術情報は積極的に提供してはいけない
- ニ 設計時に想定した構造性能が達成できるよう、各業者間での情報共有が必要である

問 16 鋼板の塗装製品の初期塗り替え時期の目安として、次の記述のうち誤っているものはどれか

- イ ポリエステル系は一般的に 7～9 年
- ロ 塩ビ樹脂系は一般的に 5 年
- ハ フッ素樹脂系は一般的に 20～22 年
- ニ 耐酸被膜は一般的に 20～25 年

問 17 設計図に関する内容で、次の記述で誤っているものはどれか

- イ 建築図は意匠図と構造図に分類して呼ぶことがある
- ロ 意匠図とは建築全体の形態や間取りなどの意匠（デザイン）を伝えることを主眼にした図面のことである
- ハ 意匠図のうち配置図・平面図・立面図・断面図・仕上表・矩計図を一般図と呼び、これらによって建物の空間概念が把握できる
- ニ 構造図は基礎伏図・床伏図・小屋伏図・平面図を示す

問 18 折板屋根の棟の納めに関する内容で、次の記述で誤っているものはどれか

- イ 折板の棟側端部には、止面戸の取り付けその他の防水上有効な措置を施す
- ロ 棟包みとして用いる鋼板は折板と同等の性能を有するものとし、加工長さは折板の働き幅に応じた寸法とする
- ハ 棟包みどうしの重ね部の留め付けは細目ねじ又は耐水リベットによるものとし、留め付け部は折板の山部に設けなくてよい
- ニ 折板の熱伸縮等の影響を受ける恐れのある場合には、折板の長さ方向の伸縮を考慮した棟包みを用いる

問 19 一般に屋根・壁の改修目的として、次の記述で誤っているものはどれか

- イ 劣化対策・長寿命化
- ロ 経済性・安全性の向上
- ハ 室内環境の改善
- ニ 建築物用途の変更

- 問 20 スレート屋根改修におけるアスベスト対策について、次の記述のうち誤っているものはどれか
- イ 石綿作業主任者の選任と作業者への特別教育を実施する
 - ロ レベル 3 対応の防塵マスクや通勤等と同じ作業衣を着用する
 - ハ 関係者以外の立ち入りを禁止する
 - ニ 廃スレートは専門業者に委託し、産業廃棄物として安定型最終処分場で処理する
- 問 21 提出書類の確認について、次の記述のうち誤っているものはどれか
- イ 施工要領書
 - ロ 施工図
 - ハ 材料検査表
 - ニ 地質調査
- 問 22 一文字ぶきの納めに関する内容で、次の記述で誤っているものはどれか
- イ 銅板・銅板ぶきを問わず、軒先の納めには唐草を用いるが、唐草の継手には、爪掛け式とはぜ掛け式がある
 - ロ ふき板の加工には 2 通りあり、はぜ部に切込みを入れなかつかみ込みぶきと切込を入れる爪切りぶきである
 - ハ 爪きりぶきは、はぜを切れ込むことになるので、雨仕舞の点ではつかみ込みぶきの方が劣っているといえる
 - ニ ふき板には熱による伸縮を吸収するエキスパンションジョイントを桁行 5m～6m ごとに 1 か所設けるようにする
- 問 23 屋根の改修工事で、設計・見積り時の調査項目として、次の記述のうち誤っているものはどれか
- イ 屋根材の種類及び板厚
 - ロ 屋根材の劣化状態は調査項目とせず
 - ハ 心木の有無と間隔
 - ニ 軒・棟の役物の納まり寸法
- 問 24 折板屋根のけらばの納め方で誤っているものはどれか
- イ けらばは、端部用タイトフレームによって補強する
 - ロ けらば包みとして用いる鋼板は、折板と同等の品質を有するものとする
 - ハ けらば包みは、端部用タイトフレーム又は下地金物に留め付けない
 - ニ けらば包みどうしの重ね部の留め付けは細目ねじ又は耐水リベットによるものとする

問 25 外壁の各部の納まりに必要な胴縁について誤っているものはどれか

- イ 出隅部には外壁材の端部、役物、下地ボードを固定するために外壁材の縦張り、横張り工法に関わらず縦胴縁(角形鋼管)を設けることが望ましい
- ロ 入隅部には、縦張り工法においては特別な場合を除いて縦胴縁は不要である
- ハ パラペットの天端の胴縁には笠木及び捨て笠木の取り付けに際し障害となるので、ボルトやナットが上部へ出ないようにすることが必要である
- ニ サッシ、ドア、ガラリ、シャッター等の建具との取り合い部は、開口周辺に水切りや外壁材端部を固定するために胴縁の配置は不要である

問 26 維持保全に関する用語の説明で誤っているものはどれか

- イ 日常点検 = 対象物が日常運用されているときに可能な点検
- ロ 定期点検 = 周期を定めて対象物を休止させたりして行う点検
- ハ 保守 = 消耗部品の取り替えや汚れの除去等、対象物の機能の維持と耐久性確保のために行う作業
- ニ 修繕 = 劣化又は陳腐化した部材・部品等の機能・性能・外観を現状あるいは初期の水準以上の状態にすること

問 27 二重折板屋根の納めに関する内容で、次の記述で誤っているものはどれか

- イ 断熱金具は適切な試験によって許容耐力が確かめられたものとし、下折板の墨出し位置に確実に取り付ける
- ロ 断熱材はグラスウールその他これに類するものとし、下折板の上に隙間なく敷き込む
- ハ 軒先水切りは、軒先面戸と外壁に固定する必要はない
- ニ 下折板の棟はグラスウール受けと万が一の漏水に備えた捨て棟としての役割がある

問 28 二重折板屋根の構法についての説明で正しいものはどれか

- イ 断熱金具とは断熱材を留め付ける部品である
- ロ 断熱金具は下折板のタイトフレーム位置に重ならないよう取り付ける
- ハ 断熱材は一般にはボード状の厚さ 100mm、密度 10~16kg/m³のものが用いられる
- ニ 断熱材の敷き込み方向は、折板の流れ方向、桁方向のいずれも可で、性能上両者の違いはない

問 29 風荷重の計算に用いられる地表面粗度区分の説明で誤っているものはどれか

- イ I = 海面又は湖面のような、ほとんど障害物のない地域
- ロ II = 田園地帯や草原のような農作物程度の障害物がある地域
- ハ III = 樹木・低層建築物が多数存在する地域、あるいは中層建築物(4~9 階)が散在している地域
- ニ IV = 高層建築物(10 階以上)が密集する市街地

問 30 建築構造の種類について、次の記述のうち誤っているものはどれか

- イ 木質構造
- ロ 鉄筋コンクリート構造 (RC 造)
- ハ 鋼構造 (S 造)
- ニ 鉄骨鉄筋コンクリート (SRS 造)